# トナカイの木

あのこは鼻を撫でてくれました
歌とおなじだ、柊の実みたいと
転がるように驚いて
それからちょっぴりほほえんで
青い瞳は夜に輝いた。

---

孤独な王様が命じた。
「クリスマスには街路樹に飾りをつけなさい」

町の人々はどんな風に木を飾ればよいのか分からなかったけど、なんとなく素敵でヘンテコな命令だったので、ヘンテコな飾りつけをした

お肉屋さんは木にお肉をぶら下げたり、魚屋さんは魚をぶらさげたり
町長さんの奥さんは素敵な洋服とてっぺんにはベレー帽をのせたり
町長さんはお金を飾りました

女の子はサンタさんを思い浮かべました
わたしのところに最初にきてほしいから、てっぺんには大きな星をくっつけよう。
小さな星々も木にゆっくり流れる川や雲
そして所々にいろんな色した星をぶらさげよう
サンタさんはきっとそんな景色を見てる
女の子はそう信じて眠りましたとさ。

オシマイ　　（たこすけ）
（参考：「アメリカ合衆国初代皇帝ノートン１世」よりの勅命
クリスマスには街路樹に飾りつけるべし）

針葉樹と呼ばれます
足から根が伸びてひろがり
知らぬ人や遠い国の冬と絡まる
棘を含んだぬくもり
ひとつひとつが雪だ
最大電力を両腕に託す
街のイルミネーションと
総合病院のそれは、それは
閉じる瞳を柔らかく包みたい
欠片の印よ、星を放て
（天野しえら）

地球上の赤と緑が
愛らしいマントになって
ふわふわと散歩する師走
寒がりの星々が我れ先に
暖かなともしびを纏おうとする
息が白く透けて
だから冬は淋しい
だけど冬は優しい
今年も隣にいるきみは
トナカイみたいな優しい目
重ね合う掌の上産まれたてみたいに強く煌めく何か
（衣未）

2018 年 10 月 29 日から 11 月 7 日にかけツイッターにて、タグ #楽詩を使い、サトウアツコさんのイラストにぴったりの詩歌やショートストーリーをつけるイベントを行いました。ツリーのテンプレートを使うか、または自由というお題で、そのときの投稿作品です。トナカイが頭だけ大きかったり、不思議な男の子が木の上にいたり、さみしそうな雪だるまがいたり……一見変わったモチーフの絵に、みなさんうまく作品をつなげました。ツリーはなんと、５本も立ちました！（豊増美晴）

１　と　２　の月
ひとり　と　ふたり　のもの

ツリー　と　トナカイ　は眠り
ヒイラギの　葉　と　実　は踊る

青い星　は　喧嘩をして
赤いハート　は　愛を育む

雪だるま　は　ひとりぼっち

冷えた　心　と　体　は
温まらずに　溶けて　なくなる

（イリト）

言葉の裏には
本当の愛があるらしい
その場所は
誰も知らない
二人の愛を
秤にかけてはならない
少しの風で
愛の秤は
どちらかに傾く

言葉の裏を
歩いているのだが
気付かない
それでいいのだ
一枚捲ると
二枚三枚と捲りたくなる
どこかで
危険な匂いに出くわす
そんな冒険は
してはならない

（木村孝夫）

# ツリーの詩

半分ずつ作りました
合わせて作られたものも
偶然出会ったものもあります

縱　雪
もみ　の子
木に従　願いの
ちとちがう　旅路は遠く
もみ縱　再会の
人人が木　約束の日
を縱縱しモク　いつ訪れるか
シャル貼らす面と　知らぬまま今宵も
貼らさない面とがあり　蘇るモミの木の思い出
木もちよくなり　また会おうねと
木もちわるくなり　並んで笑い唱えた
片側だけ囃し立ててては　ハートとホシの魔法は
いけませんよと木に従う手手　大人になった２人が忘れても
飾りつけましょうきらびやかに縱　トナカイと雪だるま一緒になって
知恵の樹でもありますから　忘れずに口ずさんでいる
人グル　天使だ
人グル　った頃
モミ従　の記憶

（こひもともひこ）　（流歩詩）

冬　夜
訪れ　降り
鈴の音　積もる
待ちぼうけ　雪の願いは
木々の　遠くへ
隙間には　想い募る
風の子が眠る　きよしこの夜
乾いた手のひらを　交差する星の軌跡
ひらいた指と指の間を　重なり合う今宵の奇跡
すれ違う季節が　見守っているよ
擦り傷を作ろうと　心配しないで君を
鋭い柊の葉に赤い実は　一人にはさせないから
守られて夢の随に輝きを灯す　ずっと一人にはさせないから
衣擦れに耳をそばだてて眠る夜に　白く溶かしてあげる君の青粒の涙
風吹けば葉擦れの音と足音　もう震えなくていいんだよ
しゃら　大丈夫
しゃら　大丈夫
しゃら　だから

（杜 琴乃）　（流歩詩）

今　一
年の　二の
ひいら　サンタ
ぎについて　クロースは
あかい　満杯の
実なぜか　橇を引く
花のようです　夢を詰め込み
鼻のようですよね　防水処理を施して
雪だるまがこっちの方　来たる日に備えている
じっと見ている　ホントは雪の精
なんだか暑いです　ホントは雪だるま
僕は木のうえ口笛吹き　心も体もシンメトリー
魔女が忘れていったほうきで　結晶が天からの贈り物ならば
今年はこころの掃除をしようかな　撒いて散らして行方に滑らせては
あなたと逢える夢まですこし　夜と希望の文字を代えるのさ
転がる　わっせ
ように　ほいせ
愛し坂　聖し道

（豊増美晴）　（天野行雄）

星　昊（そら）
輝く　煌く
この夜　この宵
聖樹の下に　聖夜を前に
私たち　君たち
あつまり　かけだし
高なる鼓動と　温かな料理と
しずかなる祈り　おてせいの飾り
憧れの香りが満ちて　パーティーが始まり
贈り物はなに？　主役はだあれ？
ささやきかわす声　慌ただしく支度し
天使の歌が聞こえたら　聖者のソリが走ったら
トナカイの足音も追いかける　子供はそろそろおねむの時間
ヒイラギの赤い実に想いをのせて　いつも通りの赤い服を風に翻して
今こそ喜びの日喜びのとき　今こそ喜びの日喜びのとき
ゆきも　今年も
大地も　必ずや
祝うよ　行くよ

（とがし ゆみこ）　（蟻男）

冬　夏
独り　永遠
佇んだ　暑くて
雪だるまを　終わらない
少年は　と私は
憐れんだ　信じてた
嗚呼、嗚呼　でも終わるの
かわいそうだね　金木犀の花が香り
とてもかわいそうだ　未来を感じさせていて
ここにはもう　どこもかしこも
だれもいなくて　冬になっていくね
君はいつからここで　家具屋やテーマパーク
ひとりぼっちでいたのかな　の広告がクリスマスっぽくて
「もう、大丈夫。寂しくないよ　私は何年か前の聖夜のひとときを
これからは僕がいるから」　ぼんやり想い出していたわ
優しい　今年の
あの子　終わり
は星に　と未来

（葉月兎來）　（深田水松）

TaNoShi ホームページ
http://www.tanoshi.info/
Twitter　@ta_no_shi

イラストと詩歌のコラボ
ふりペ＆ねぷり　TaNoShi　楽紙
2019 年 1 月 20 日　発行　第 8 号
編集・発行 / とよよん商会　豊増美晴
イラスト / サトウアツコ